



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証1部：4187

2020年11月期 | 2021年1月7日

決算説明会

見えないけれど、あなたのそばに



目次

◆ 2020年11月期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画

目次

◆ 2020年11月期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画

2020年11月期 決算概要

外部状況

◆新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、移動の自粛や工場の停止など、経済活動の停滞が顕著となりました。一方、テレワークの浸透や5G世代への移行の進展により、電子材料関連産業においては好調に推移しました。

売上高

◆化成品・機能化学品は販売が減少しましたが、電子材料関連の販売が好調であったことにより、売上高は前期比0.1%増の286億8千1百万円となりました。

営業利益

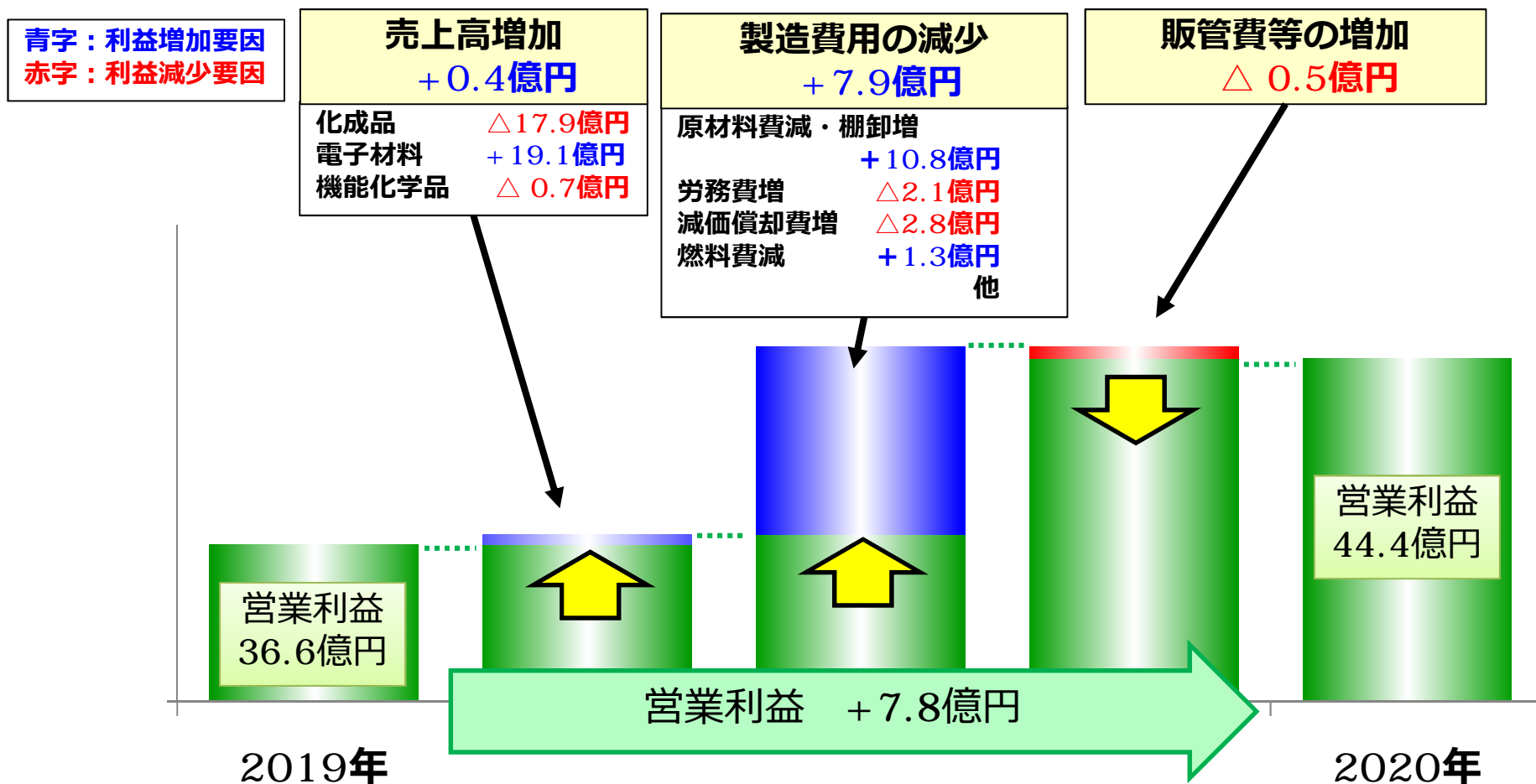
◆付加価値の高い電子材料関連が好調であったこと及び、原油安などにより原燃料の価格が下がったことにより、営業利益は前期比21.3%増の44億4千2百万円となりました。

(百万円)	2019/11	2020/11	2020/11	前年同期比	
	実績	当初予想	実績	増減額	増減率
売上高	28,638	29,643	28,681	+43	0.1%
営業利益	3,663	3,700	4,442	+779	21.3%
経常利益	3,833	3,912	4,612	+779	20.3%
純利益*	3,035	2,660	3,313	+278	9.2%
国内ナフサ (¥/KL)	42,000	41,000	32,800	—	—
為替 (¥/\$)	110	107	107	—	—

*親会社株主に帰属する当期純利益

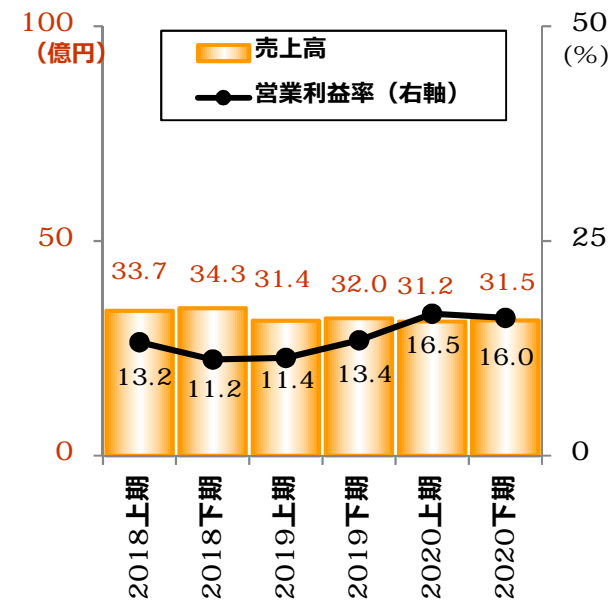
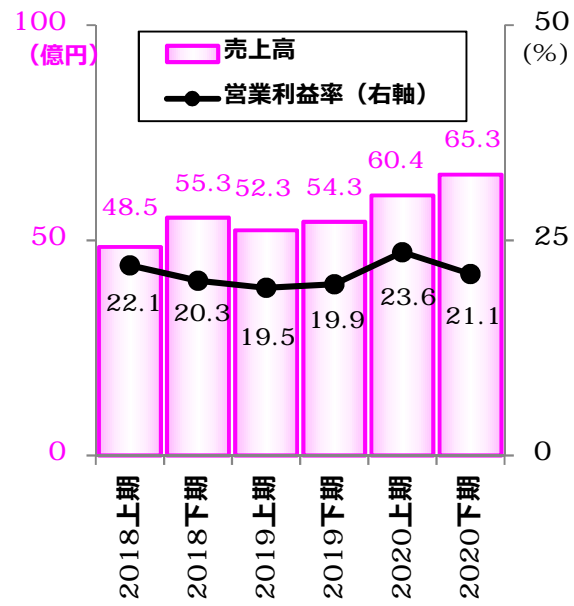
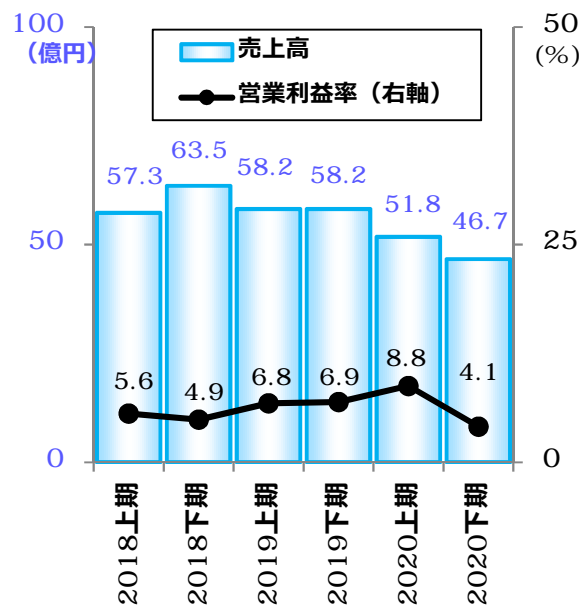
業績増減要因（対前年同期比）

◆ 化成品の販売が減少しましたが、付加価値の高い電子材料関連が好調であったこと及び、製造費用の減少などにより、営業利益は前年より7.8億円増加しました。



セグメント実績

化成品	電子材料	機能化学品
新型コロナの影響により自動車塗料、印刷インキ用モノマー販売が低調で 減収 。販売減の影響を受け 減益 。	半導体市場の伸びと、リモートワークの普及による表示材料の需要増などにより 増収 。販売増に伴い 増益 。	在宅勤務増加などで化粧品原料減少、機能材料も販売減で 減収 。利益率の高い製品比率の増加により 増益 。
売上高 98億4千3百万円 (前年比 $\Delta 15.4\%$)	売上高 125億6千8百万円 (前年比 $+17.9\%$)	売上高 62億6千8百万円 (前年比 $\Delta 1.1\%$)
セグメント利益 6億4千8百万円 (前年比 $\Delta 18.3\%$)	セグメント利益 28億3百万円 (前年比 $+33.6\%$)	セグメント利益 10億2千万円 (前年比 $+29.7\%$)

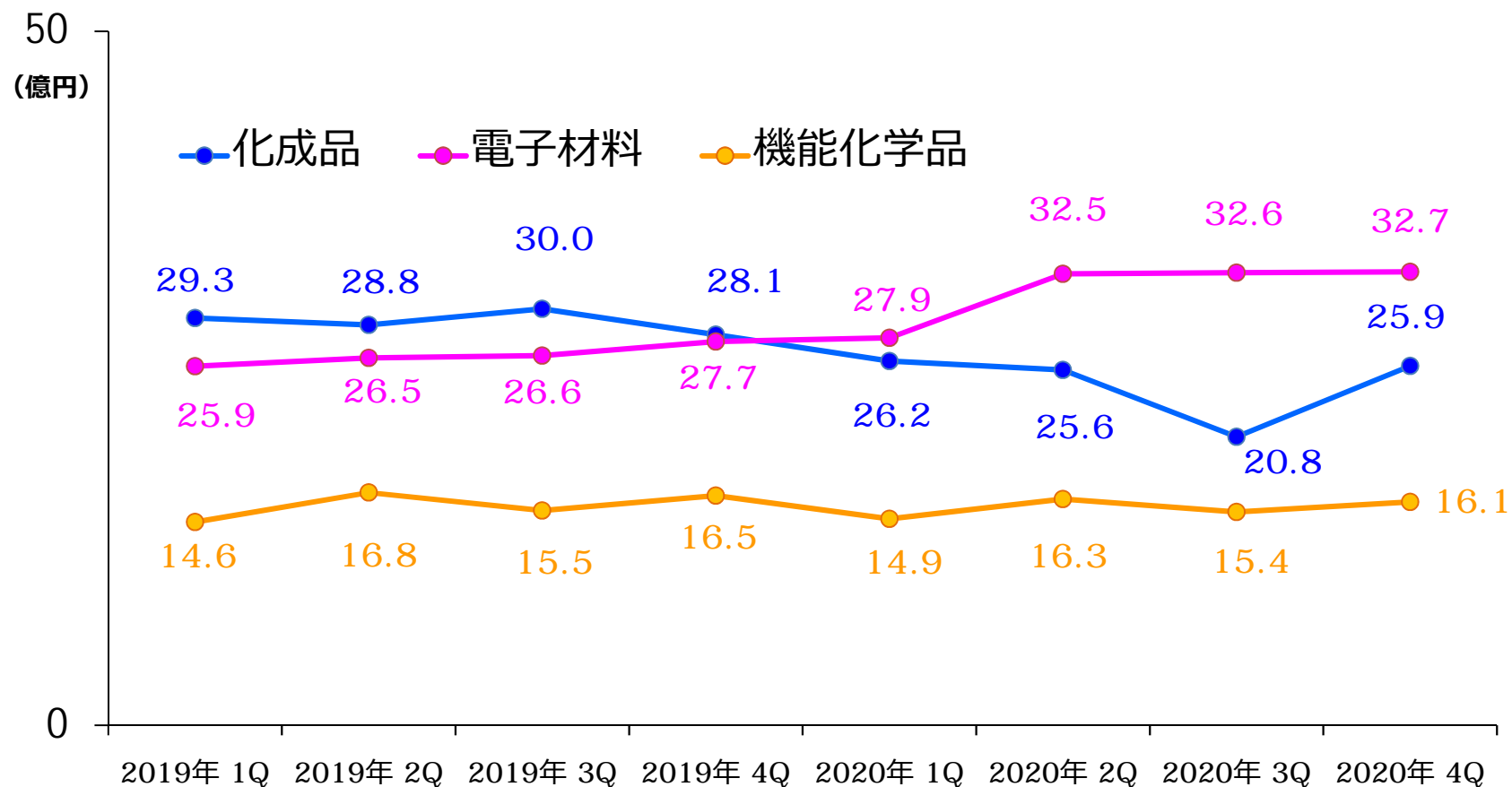


セグメント別売上推移（四半期）

◆セグメント別四半期売上高

四半期別では、化成品で特に3Qの落ち込みが顕著でしたが、4Qで回復してきました。

電子材料関連は好調、機能化学品は堅調に推移しました。



損益計算書

◆営業外損益

営業外損益においては、前期に比べ大きな変動はありませんでした。

◆特別損益

特別利益が、投資有価証券売却益、受取保険金の減少などにより270百万円減少しました。

特別損失が、設備更新などに伴う固定資産除却損の増加により99百万円増加しました。

	(百万円)			
	2019/11	2020/11	増減額	
営業外収益	223	224	+1	
営業外費用	53	54	+1	
特別利益	371	101	△270	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 投資有価証券売却益 △119百万円 (政策保有株式の売却) 受取保険金 △139百万円 他 </div>
特別損失	24	123	+99	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 固定資産除却損 +89百万円 (設備投資に伴う旧設備の撤去等) 他 </div>

青字：利益増加要因
赤字：利益減少要因

貸借対照表

(百万円)

	2019/11	2020/11	増減額	
資産				
流動資産	22,960	23,134	+174	
有形固定資産	14,900	16,299	+1,399	➡
無形固定資産	78	70	△8	
投資その他の資産	5,907	5,819	△88	
負債				
流動負債	8,782	7,553	△1,229	➡
固定負債	2,518	2,745	+227	
純資産合計	32,546	35,025	+2,479	➡
総資産	43,848	45,324	+1,476	

建物及び構築物（純額） +1,398百万円
 （新研究棟等）
 機械装置及び運搬具（純額） +998百万円
 （化成品・電子材料設備増強）
 建設仮勘定 △1,181百万円
 他

支払手形及び買掛金 △965百万円
 未払金 △687百万円
 他

利益剰余金 +2,316百万円
 他

コロナ対応としての 今後の財務指標

	2020/11時点	コロナ後の目安
自己資本比率	76.5%	—
手元流動性比率	3.0カ月	3.0~4.0カ月
DEレシオ	0.09	0.2以下
ネットDEレシオ	-0.13	0以下（実質無借金）
インタレスト・カバレッジ・レシオ	579倍	200~400倍

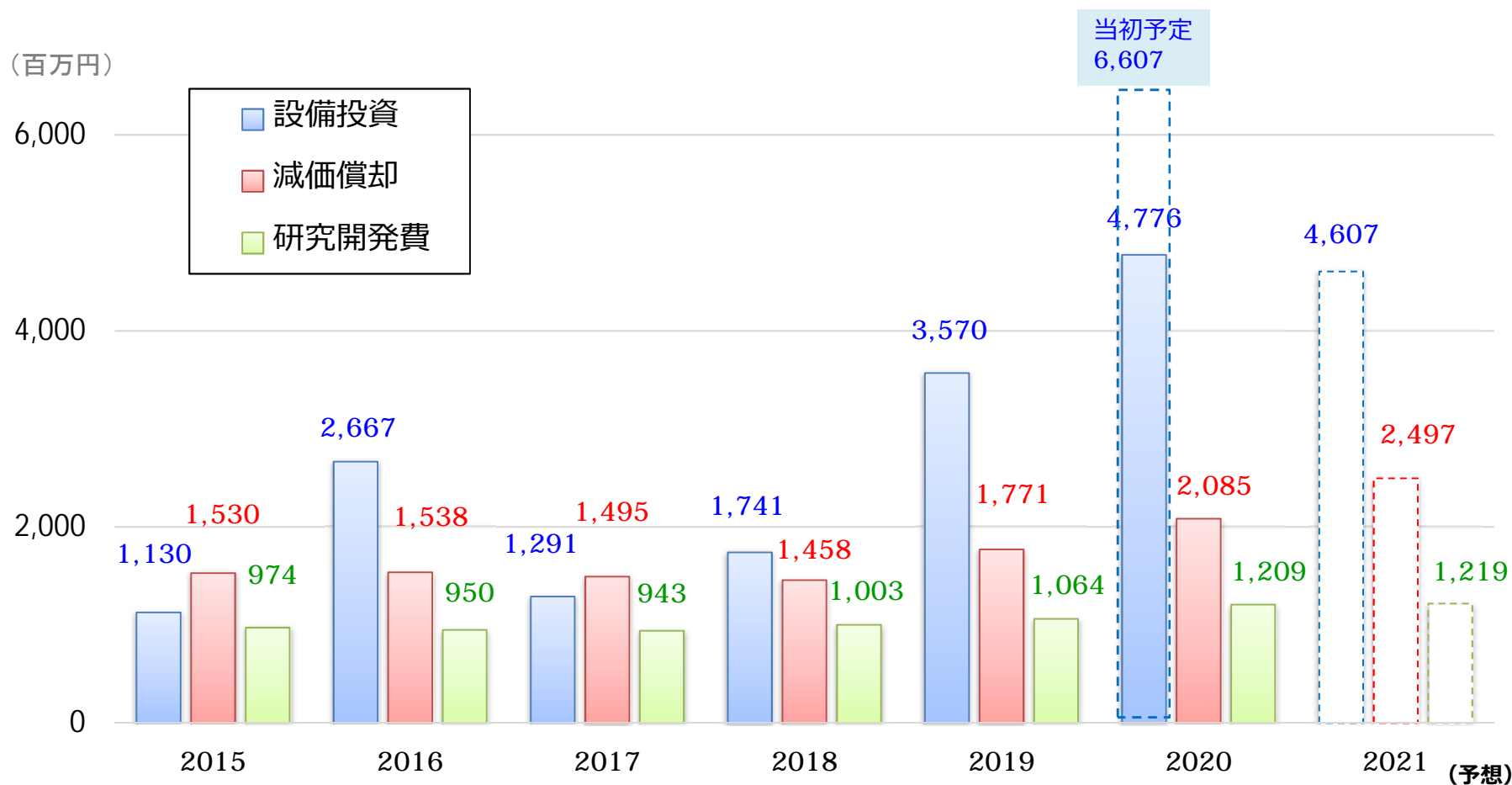
キャッシュフロー

	(百万円)		【主な内訳】
	2019/11	2020/11	
営業活動によるCF	3,506	5,257	税金等調整当期純利益 4,590百万円 減価償却費 2,085百万円
投資活動によるCF	△2,739	△4,434	有形固定資産の取得による支出 (半導体関連設備増強等) △4,837百万円
財務活動によるCF	432	△648	長期借入れによる収入 1,350百万円 (設備投資・財務の強化等) 長期借入金の返済による支出 △980百万円 配当金の支払い額 △996百万円
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△34	△5	
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,165	169	
現金及び現金同等物の 期末残高	6,342	6,511	

設備投資・減価償却・研究開発費の推移

* 2020年度は約66億円の設備投資を見込んでおりましたが、工事の期ずれなどにより、48億円となりました。

中期経営計画にて、2020年～2024年度までの累計で約200億円の設備投資を計画しております。



設備投資

◆中期経営計画に沿い、適切に設備投資を行っていきます。2021年は半導体関連材料設備の装置関連の増強や、工場のユーティリティー関連を中心に設備投資を行います。

	2019年		2020年		2021年		生産能力など
化成品製造設備増強	工事		試作	運用中			UV-IJ用モノマー等 (供給能力 +1,000 t / y)
電子材料製造設備増強	工事		試作	運用中			半導体用モノマー設備 新設 (供給能力≒50%増)
	計画	工事		試作	運用中		半導体関連材料設備 増強 (供給能力≒20%増)
				計画	工事		半導体用モノマー装置増強
新研究棟建設	計画		工事		運用中		新規事業の創出拠点

トピックス <新研究棟>

概要	<ul style="list-style-type: none">◆所在地 大阪府柏原市片山町18-8◆構造 地上2階建て鉄骨造 延べ床面積：約3,300㎡併設厚生棟：平屋建て 延べ床面積：約500㎡◆完成 2020年11月6日に落成式を実施
目的	<ul style="list-style-type: none">◆研究環境を新たに整備し、新事業・新製品創出のために新研究棟を建設・大阪の地域利便性を生かし、顧客とのコミュニケーションを強化・研究と販売のコミュニケーションを強化し、課題のインプットと成果のアウトプットを迅速に行うための拠点づくり・将来の優秀な研究員獲得と育成強化による組織力向上
開発中	<ul style="list-style-type: none">◆機能性エラストマー、伸縮性導電材料の拡販（内閣府・戦略的イノベーション創造プログラムにも参画中）◆有機圧電材料の開発と上市（大学と共同研究中）◆調光材料市場への参入◆接着モノマーの量産と拡販
写真	   

目次

◆ 2020年11月期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画

2021年11月期 業績予想

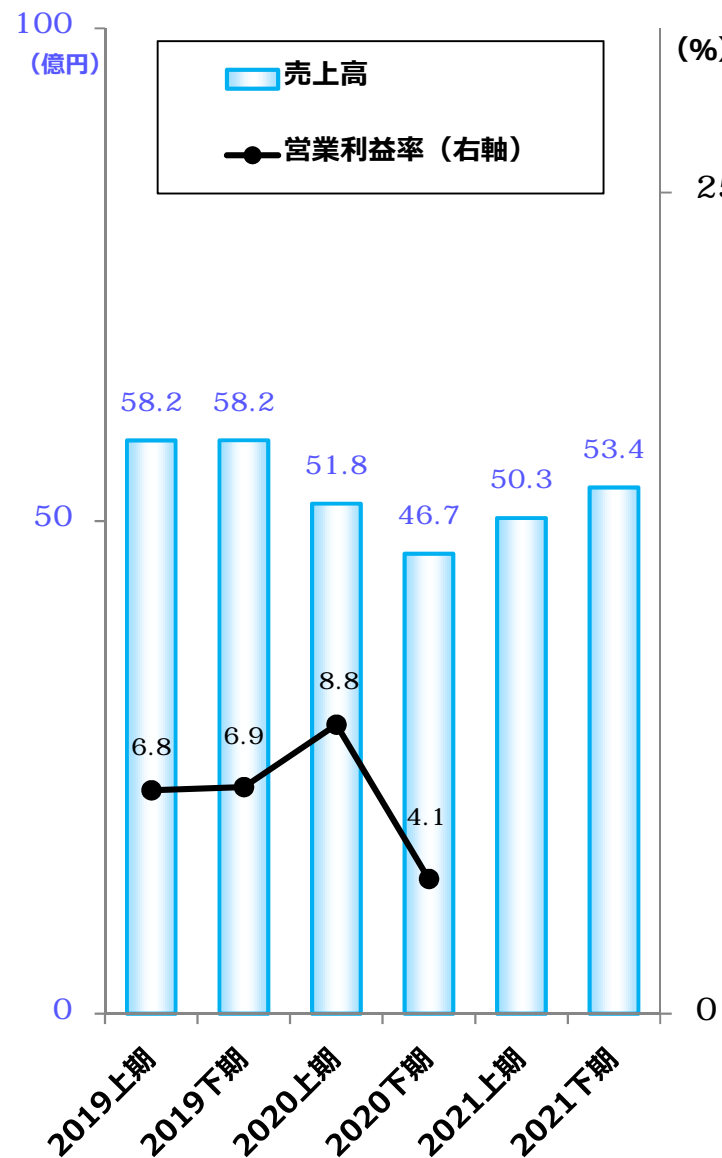
◆通期業績予想

2021年11月期は、売上高が約20億円増の307億4千万円、営業利益はほぼ横ばいの45億5千万円と予想しております。

(百万円)	2020/11 (実績)	2021/11 (予想)	前年増減	前年比
売上高	28,681	30,740	+2,058	107.2%
営業利益	4,442	4,550	+108	102.4%
経常利益	4,612	4,845	+233	105.0%
当期純利益*	3,313	3,316	+3	100.1%
売上高営業利益率	15.5%	14.8%	-	-
ROE	9.9%	9.3%	-	-
一株当たり純利益	149.59円	149.69円	-	-

*親会社株主に帰属する当期純利益

業績予想 化成品事業



2021年11月期予想
売上高 103億円 +5% (対2020年)

◆外部環境

- ・コロナ禍で、自動車大手は世界各地の工場の操業を停止し、4～5月は前年比5～6割減。6月には前年比2割減まで回復。2021年は回復の見通し。

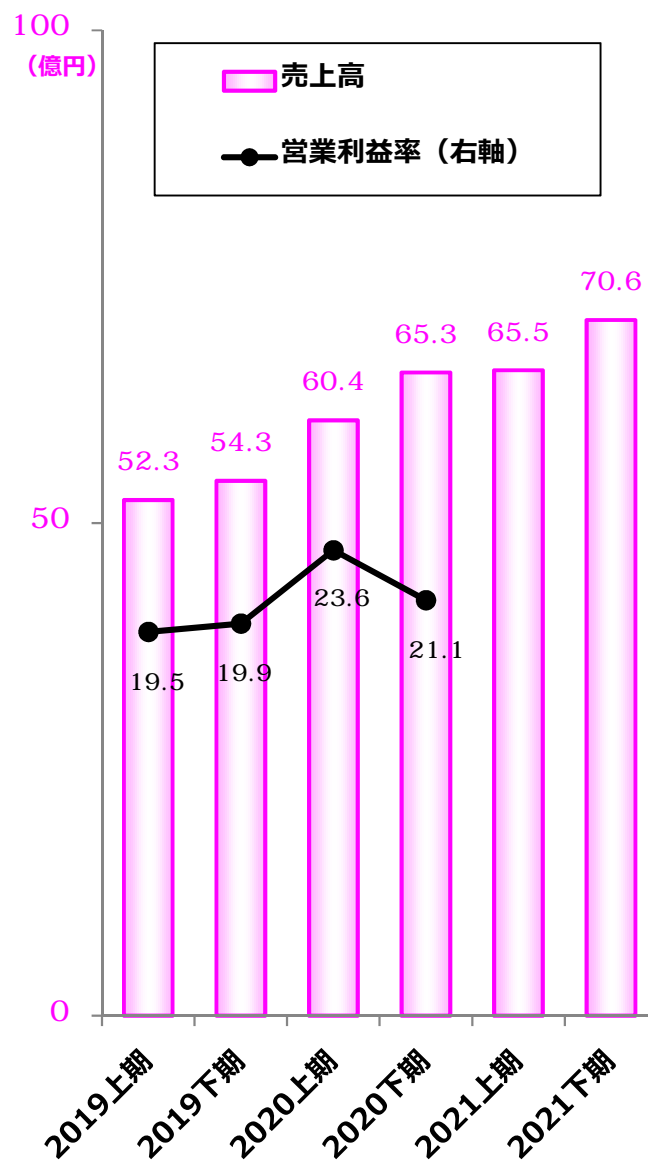
◆当社の状況

- ・2020年は塗料関連を中心に販売減。国内海外ともに、特に3Q(6～8月)に落ち込んだが4Qにはすでに回復傾向にある。
- ・市場動向の見極めと主力製品の拡販、コスト削減に努める。

◆市場におけるリスク

- ・原油価格の変動。
- ・天然由来原料相場の高騰。
- ・コロナ禍による経済動向。

業績予想 電子材料事業



2021年11月期予想
売上高 136億円 +8% (対2020年)

◆外部環境

- ・「5G」の普及やリモートワーク増加の影響などで半導体市場は拡大。2021年の半導体市場規模は、過去最大になる見込み（2020年12月WSTS）。
- ・最先端のEUV露光はアジアを中心に実用化が進展。
- ・FPDでは需要が急増。韓国勢は有機ELへシフト。

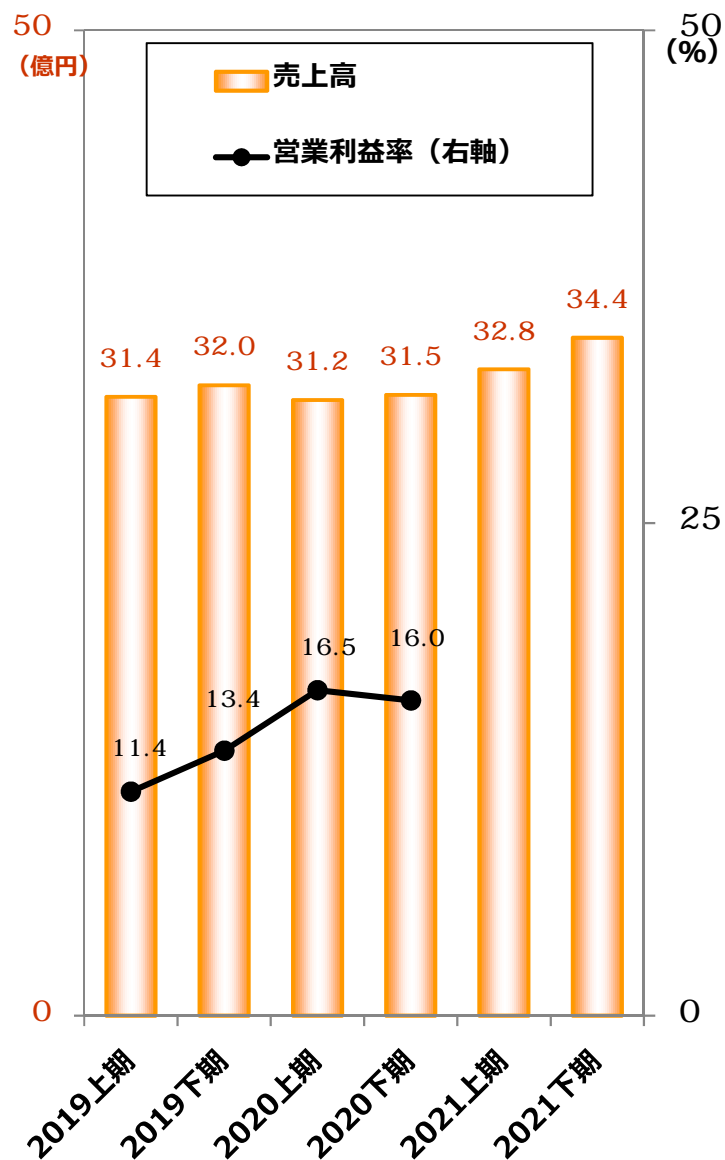
◆当社の状況

- ・ArF露光用レジスト原料は引き続き好調であり、顧客ニーズへの対応に注力していく。
- ・EUV用途の材料も徐々に増えており、さらなる採用増を目指す。
- ・FPD関連材料も引き続き顧客要望の実現と拡販に努める。

◆市場におけるリスク

- ・日韓及び、米中貿易摩擦の深刻化。

業績予想 機能化学品事業



2021年11月期予想

売上高 67億円 +7% (対2020年)

◆外部環境

- ・コロナ禍で化粧品の国内市場は縮小。
- ・中国の化粧品市場は経済成長に伴い、2024年には、2019年比で6割増に達する見通し。

◆当社の状況

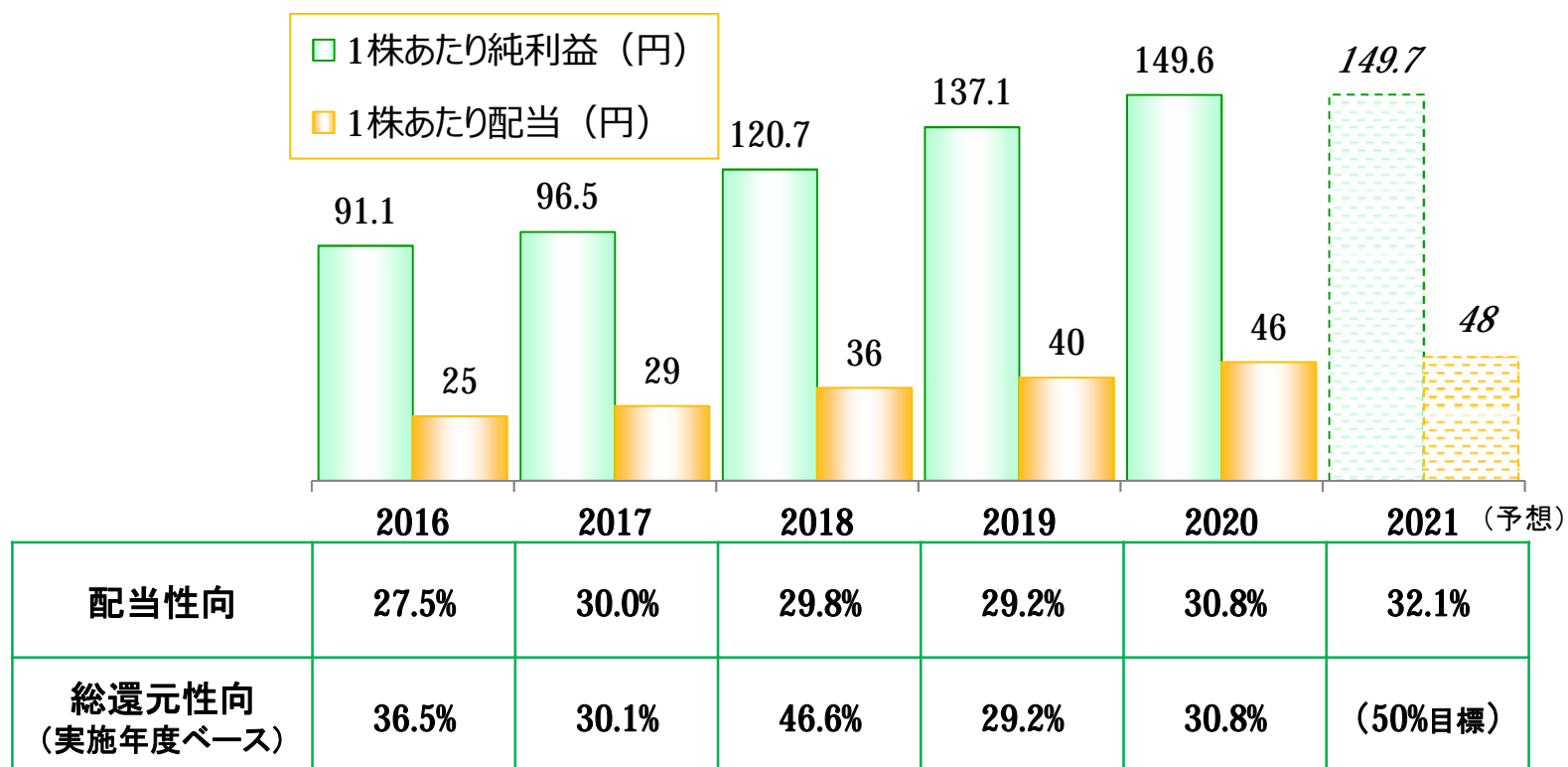
- ・スキンケア用シートマスクに好適な機能（保湿性など）を有する化粧品原料を中国などへ拡販。
- ・超親水性材料、半導体用溶剤の拡販、添加剤のサンプルワークを進める。
- ・2月に三菱ケミカルから頭髮化粧品用アクリル樹脂の製造・販売事業を譲受する。（2020/8/19 公表）

◆市場におけるリスク

- ・コロナ禍による化粧品需要の落ち込み長期化。

株主還元

- ◆ 配当性向30%を目安とし、健全な財務内容を維持しつつ、安定的かつ継続的な配当に努めます。
- ◆ 総還元性向50%を目標とし、自己株式の取得を含めた株主還元の充実に努めます。



目次

◆ 2020年11月期 決算概要

◆ 2021年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画

第2次5ヶ年中期経営計画（2020-2024）

◆1年目を終えて

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大、ナフサ価格の下落の影響を受けたものの、電子材料が順調に売上を伸ばし、売上高はほぼ横ばいである一方、営業利益は増益、営業利益率は15%を超えました。

2021年度は、外部環境の不透明感があるものの、化成品事業の販売回復を見込み、半導体事業の販売拡大、化粧品事業譲受による販売増加等、売上高の大幅な増加を目指し、第二次中期経営計画の売上目標達成に向けて、非常に大切な一年であると考えております。

	2019年 (実績)	2020年 (1年目結果)	2024年 (目標)
売上高	286.3億円	286.8億円	370億円以上
営業利益	36.6億円	44.4億円	50億円以上
営業利益率	12.8%	15.5%	13.5%以上
ROE	9.7%	9.9%	10%以上
配当性向	29.2%	30.8%	30%目安
総還元性向	29.2%	30.8%	50%目標

中期経営計画

事業	施策	進捗	達成度
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> ◇製品の統廃合：特殊アクリル酸エステル（汎用品）の統廃合を実施。 ◇新製品の投入：UVインクジェット用モノマーを展開。新規設備が今春より稼働。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇不採算品目の外部委託・終売を進めている。 * 2020年に8割程度進捗、今期完了予定。 ◇UV-IJ用途は市場が停滞し目標を下回った。 * 販売量 2割減（前年比） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △
電子材料	<ul style="list-style-type: none"> ◇ArFレジスト用モノマーのシェア拡大：昨年新設した設備が稼働し安定生産中。販売体制を強化。 ◇次世代EUVレジスト用モノマー：試作品の採用増を目指す。 ◇半導体周辺材料：設備増強を進め供給体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇半導体関連は非常に好調。 * 売上 3割増（前年比） ◇EUVは、まだ数量は少ないが採用数は順調に増加。 * 売上 4割増（前年比） ◇計画的に設備能力増強を進行中。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ○ ○
機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ◇海外拡販：スキンケア用原料の化粧品原料を中国をはじめとする海外へ拡販。 ◇機能材料の展開：新規塗料用材料、超親水性コーティング材、先端医療材料など顧客と共同研究。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇スキンケア用原料の中国への拡販が順調。 * 輸出量 5.8倍（前年比） ◇先端医療材料は、顧客との共同開発で一定の進捗有り。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○
新規事業	<ul style="list-style-type: none"> ◇新事業領域の確立：伸縮性導電材料・調光材料・有機圧電材料などで、他社や大学との共同開発を実施。 ◇拠点整備：大阪事業所に新研究棟を建設中。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇開発品毎にサンプルワークを進めている。 ◇2020年11月に新研究棟完成。 	<ul style="list-style-type: none"> △ ○

見えないけれど、あなたのそばに



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

<注意事項>

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。
決算説明会での質疑応答の要旨は、当社ホームページにて公開いたします。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071 (代表)